

開成館活用の歴史 — 農学校

郡山農学校

明治13年(1880)6月18日に、郡山農学校が開校した。校舎は郡山学校(現在の金透小学校)の2階であった。初代校長は、開拓科出張所長である立岩一郎が兼務した。立岩は、郡山農学校設立準備の段階で担当となり、上京して駒場農学校(現在の東京大学農学部的前身)を視察している。

農学校の実習地として、桑野村にある開成社の土地が無償で提供された。開成社としても、荒蕪地のまま放置すると没収すると県より達しが出ていたので、双方の利益となった。

明治14年(1881)11月4日に立岩は福島県官を辞任する。そこで、郡山農学校では、駒場農学校卒業生で郡山農学校の教諭である牛村一氏が校長心得となった。

郡山農学校では、様々な作物が試験栽培された。大麦や小麦、蕎麦や豆類の他にアメリカやフランスのトウモロコシなど多種多様であった。



明治初期の金透学校

現在の金透小学校。金透学校の名は木戸孝允により名付けられた。現在、敷地内に当時の校舎が移築・復元されて「金透記念館」となっている。



立岩一郎

立岩家文書 郡山市歴史資料館蔵

十八日社員皆桑野村ニ至リ目標ヲ立ツ、先キニ立岩開拓科ヨリ、農学校試験所ハ町七反三畝ニ廿九歩入用ノ事ヲ告ケラル、之ヲ点検スルニ、社員過半ノ壟圃ヲ失フ者アリ、又一歩ヲ失ハザル者アリ、不平均ナリト雖トモ、試験所ハ一齋ニセザルベカラザルヲ以テ、社員ノ公論ヲ問フ、皆曰、必ス双方ノ便ナリ

開成社より農学校試験所用地貸出

『開成社記録』より抜粋
郡山市中央図書館蔵
明治13年(1880)3月についての記載内容
読点「、」を加えた。

開成山農学校

明治16年(1883)に公布された農学校通則により、農学校を第一種、第二種に区別し、規定に合うように改組する必要があった。第一種は「主トシテ躬ラ善ク農業ヲ操ルヘキ者ヲ養成スル」もので、第二種は「主トシテ善ク農業ヲ処理スヘキ者ヲ養成スル為メ」(「農学校通則」『公文類聚・第七編・明治十六年・第五十四巻』)に設置するとしている。第一種は「実業ヲ授ケ」、第二種は「学理ト実業トヲ並ヒ授クル」ものであった。郡山農学校も、第一種とするか、第二種とするか県会で議論がなされた。

明治15年(1882)1月15日に、開成館に設置されていた安積郡役所が郡山の旧陣屋跡に移転しており、開成館は空き家となっていた。そこで、郡山農学校では、校舎(現在の金透小学校)から実習地(桑野村)までが遠いことなどもあり、明治16年(1883)4月に校舎を開成館に移転した。移転後の6月に校名を開成山農学校に改称し、教則を改正して第一種農学校とした。

開成山農学校では、開成館の1階を教員や生徒の寄宿舍として使用し、2階を教室として使用したと想定される。

明治19年(1886)3月25日に農学校通則が廃止され、同年9月10日に開成山農学校は廃校となった。開成山農学校の廃校後、生徒や教員は福島県尋常師範学校(現在の福島大学)や福島県尋常中学校(現在の県立安積高校)などに転じた。



開成山農学校エッチング

立岩家文書 郡山市歴史資料館蔵
開成山農学校時代の開成館の姿



開成山農学校第二回卒業式記念

立岩家文書 郡山市歴史資料館蔵
卒業式の記念写真である。立岩一郎の養継嗣である震作も卒業生のひとり。前列右から4人目。